



「水沢地区あいさつ総会」



「絆交流 いじめ見逃しゼロスクール集会」

写真の説明は 5p

巻頭言 『小中一貫校に通う保護者として』

課長補佐・学校支援係長 村山真男

私の住んでいる松之山地域には、今年で開校6年目となる小中一貫校のまつのやま学園があります。今年は PTA 会長という役を仰せつかったので、少し学園の紹介をさせていただきます。

まつのやま学園は同じ敷地内に小学校と中学校が併設しており、体育館は共用となっています。休み時間などは、小学部と中学部が一緒に遊んでいるような光景が、ごく自然に見られ、生徒会活動も小学部と中学部が一緒になって活動しています。なかでも2月の全校スキー授業ではスキー協会と温泉組合協力のもと「雪けむりから湯けむり」をキャッチフレーズに、縦割り班ごとに行動し、スキーの後には4つの旅館に班ごとに分かれて入浴するというこの地域ならではの活動を行っています。お世話になる旅館への挨拶や温泉に入るマナーなども中学部の生徒が低学年の面倒を見ています。

私が各種の学園行事に参加させていただいて一番感じたことは、学園になって、児童や生徒の自主性が強くなったと感じています。なかでも運動会は、生徒会が企画や準備を行い、当日の運営も中学部の生徒が小学部をリードして常に小学部の児童を見守りながら行っていました。休憩時間には、様子を伺い、トイレに連れて行くなど微笑ましい姿も見られました。

まつのやま学園は他の地域と比べ、児童生徒の減少が大きい学校です。地域の自然や小規模校ならではの特色を生かし、今後も PTA の一人としてまつのやま学園の学校運営にお手伝いできればと思っています。

小中一貫教育

■ 十日町市の小中一貫教育の特徴 3つのつながり

今、十日町市小中一貫教育基本計画の見直しを進めています。その中で十日町市の小中一貫教育の特徴についての議論がありました。

特徴の一つとしては、中学校区を構成する学校数や規模等に応じて、それぞれのよさを生かした取組をしていること。もう一つは、3つのつながりを大切にしているところが上げられます。ここでは、3つのつながりについて説明します。

○**教職員のつながり** ➡ **教職員の連携による 確かな学力と豊かな心の育成**

小・中・支援学校の教職員が、9年間を見通した連続性のある学級づくりや授業づくり、生徒指導等に取り組むことにより、日々の学校生活や教育活動を充実させるとともに、中1ギャップや進学への不安感の解消や小学校4年をピークとした学力の伸び悩みについての改善を目指します。

○**児童生徒のつながり** ➡ **多様な交流活動による 豊かな人間性や社会性の育成**

学級内の児童生徒の活発な交流や異学年間の交流活動を行うことにより、自己有用感や誰とも信頼関係を築く力、コミュニケーション能力や規範意識などの社会性を育み、不登校やいじめ等の減少を目指します。

○**地域・保護者とのつながり** ➡ **地域との連携による 特色ある教育活動の実践**

地域には、児童生徒が地域に誇りと愛着をもち、創造性豊かに生きる力をはぐくめる生きた教材がたくさんあります。これらの教材を各教科や総合的な学習の時間等に位置付け積極的に活動していくことができます。

また、学校・家庭・地域が一体となった「健康的な生活習慣づくり」「メディアコントロール」等の取組も有効です。

3つのつながりを大切にした十日町らしい小中一貫教育を推進するための基本計画改訂を進めています。

■ 中里中学校区・眠育の取組

中里中学校区では、保・小・中で連携した眠育に関わる取組を継続しています。一保一小一中のコンパクトな中学校区のよさを生かした取組です。中里中学校区保健班・平賀久美子先生から紹介していただきました。

朝の時間、子どもたちに「みどりのカードお願いします！」と言うと、「はいい！」と返事がきます。

これは中里中学校区の保・小・中で5年間続いている「睡眠チェック 2週間チャレンジ」期間中のやり取りです。

自分たちの生活習慣を見直そうという取組で、年間2回実施しています。目的は、「自分で目標（寝る時刻、起きる時刻、メディアの約束）を決め、それに向かって頑張る」とことと、「休日も平日も生活リズムを崩さない」ことです。1回の期間は2週間で、このうちに2回めぐってくる土日の起床、就寝時刻を一定にすることを意識して、生活リズムを作ります。そのことが「元気な生活」の土台となっていることを実感してほしいと願いながら取組を進めています。

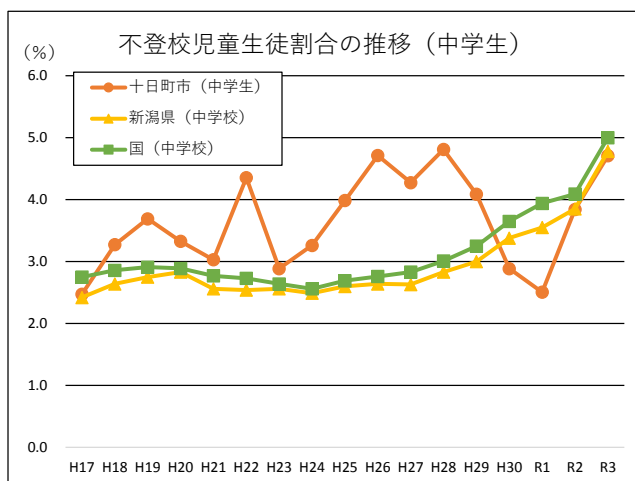
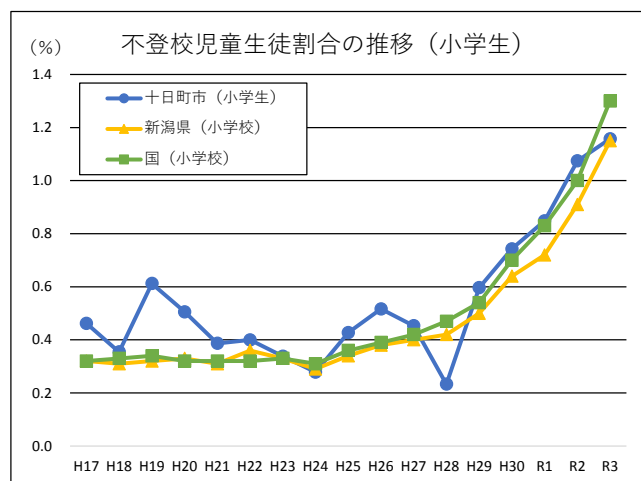


教育相談班より

令和3年度不登校・いじめ認知の状況（県・国との比較から）

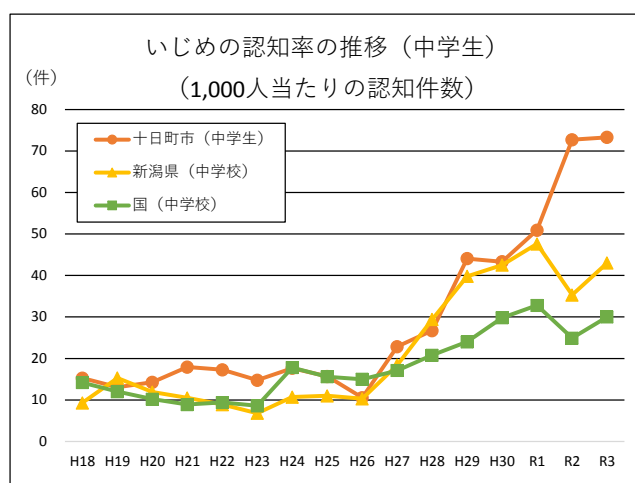
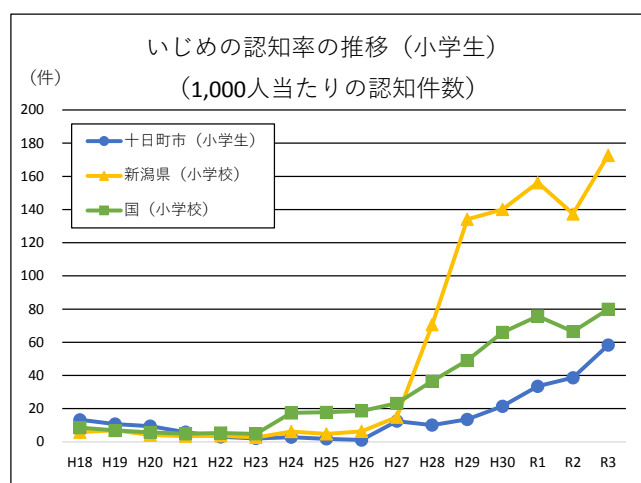
10月末、文部科学省より「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果が公表され、県や国の状況が明らかになりました。

不登校の状況



不登校児童生徒の割合は、県や国も十日町市と同様に増加傾向です。十日町市の割合は、小中学生ともに県平均並みとなり、国平均より下回っています。

いじめ認知の状況



1,000人当たりのいじめ認知件数は、県や国は令和2年度減少しましたが、令和3年度は増加に転じました。十日町市は、いじめ認知に積極的に取り組んでいるため、平成27年度から年々増加しています。十日町市の中学生の件数は、県や国より高い割合です。小学生は国平均に近づきつつありますが、まだ低い割合です。県平均と比べるとかなり低くなっていますので、小学生の早い段階から初期のものも含めて積極的に認知していくことが求められます。

「R3 生徒指導調査上の諸課題調査」では、**いじめの認知件数は小2が一番多く、次いで小1・小3**となり、中3に向けて次第に少なくなっている。

文部科学省としては、「**いじめを認知していない学校にあっては…解消に向けた対策が何らとられることなく**放置されたいじめが多数潜在**する場合もあると懸念している。**」と通知している。

認知件数

小1 小2 小3 中3

学習指導班より

県Web診断問題 第2回の結果

グラフは、1・2回目Web診断問題における正答率の県と市の比較です。0.0は県と同じ正答率、プラスは県より良い、マイナスは県を下回っていることを示しています。

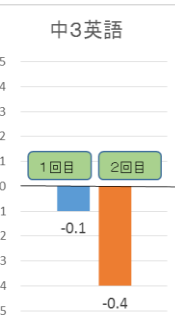
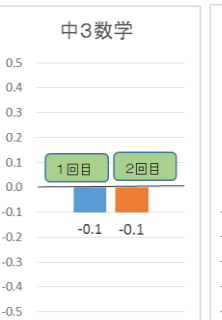
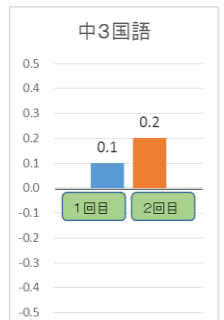
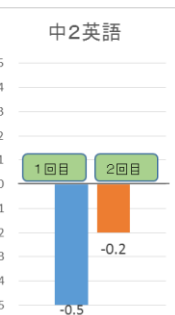
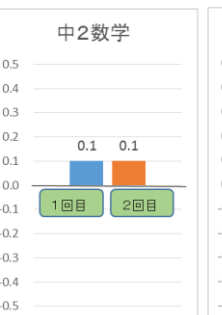
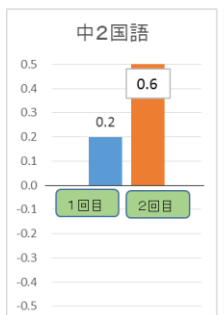
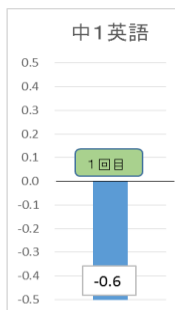
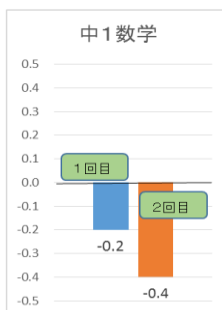
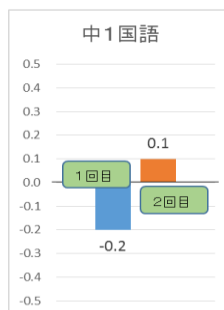
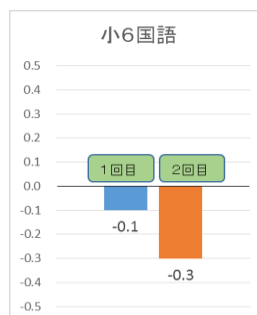
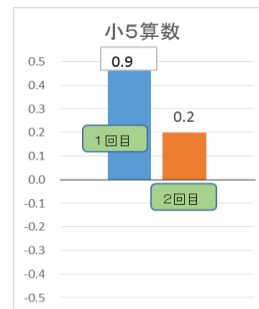
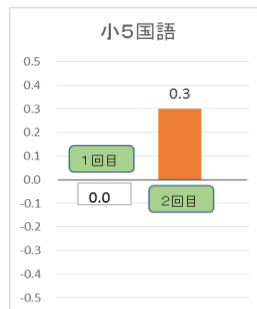
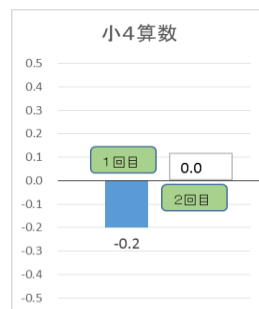
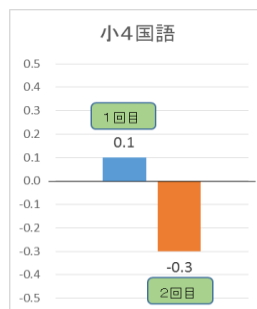
小学校4年生の2回目の結果は、国語が県を下回っていますが、算数は県平均まで向上し改善傾向です。5年生は、国語・算数ともに県を上回り、国語は向上しています。6年生は、算数は県を上回っていますが、国語は1回目・2回目ともに県を下回っています。

中学校では1年生から3年生の国語は、県平均を上回っていますが、数学と英語が県平均を下回る傾向が強くなっています。特に英語では、県との差が大きくなっていることから、英語の学力向上が引き続き課題であると言えます。

NRT学力調査では、日頃の取組の成果を把握することは、なかなか難しい面があります。

2カ月に1度実施されるWeb配信問題の結果を客観的な評価として活用し、日々の授業づくりに生かしてください。3回目・4回目の向上していくことで、次のNRTの結果にも繋がると考えています。

今年度2回目のWEBQUを実施していただきました。6月と比較して、学級の状況はどうでしょうか。「学級の型」「ヘルプサイン」「アクティブラーニング」等の項目を活用し、その結果をもとに各校で事例検討会を行ってください。教職員のアイディアとチームワークで、学級の実態に合わせた学級づくり・授業づくりを進めてくださいますようお願いします。



学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～12・1月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
1 月 18 日（水）	第 8 回特別支援教育研修講座 「進路指導・福祉サービス」 【千手コミセン】	講師：ふれあいの丘支援学校 教諭 渡邊美恵子 様 川西高等特別支援学校 教諭 木嶋 智子 様 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任

【表紙写真の説明】

水沢中学校区の集会活動

水沢中学校区では、春に「水沢地区あいさつ総会」、秋に「絆交流 いじめ見逃しゼロスクール集会」を行っています。

「水沢地区あいさつ総会」では、その後に行うあいさつ交流の顔合わせも兼ねて実施します。自分たちが目指していく「あいさつ像」について考えたり、「あいさつ交流」の目標について考えたりしました。

「絆交流 いじめ見逃しゼロスクール集会」では、地域の「明るい子どもを育てる会」の皆様が見守る中、いじめアンケートの結果について考えました。各校が工夫を凝らしたレクリエーションを小・中学生混合の縦割り班で行いました。また、とても盛り上がり、交流の輪を更に広げることができました。